

静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会（第2回）会議録

日 時	令和元年 10 月 9 日（水）午後 3 時 00 分から午後 4 時 15 分まで
場 所	ホテルアソシア静岡 15 階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：10 名（敬称略） 本庶佑、佐古伊康、田中一成、徳永宏司、中山健夫、松田文彦、 宮地良樹、望月律子、山本清二、山本敏博 欠席委員：2 名（敬称略） 鬼頭宏、宮田裕章 事務局 県参与 山口重則 健康福祉部長 池田和久 健康福祉部理事 石田貴 健康福祉部参事 窪田浩一朗 ほか健康福祉部職員
議 題	1 （仮称）静岡社会健康医学大学院大学の設置認可申請について 2 申請後のスケジュールについて 3 公立大学法人の組織・運営について 4 病院や大学等との連携について 5 その他
配布資料	議事次第 資料 1 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会 委員名簿 資料 2 設置認可申請の概要 資料 3 需要調査の概要 資料 4 開学までのスケジュール 資料 5 公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学（仮称）運営組織図 資料 6 他大学、病院、各種団体との連携のあり方

1 審議事項

- (1) （仮称）静岡社会健康医学大学院大学の設置認可申請について
- (2) 申請後のスケジュールについて
- (3) 公立大学法人の組織・運営について
- (4) 病院や大学等との連携について

2 審議内容

池田健康福祉部長から、資料 2、3 により「（仮称）静岡社会健康医学大学院大学の設置認可申請」について、資料 4 により「申請後のスケジュール」について、資料 5 により「公立大学法人の組織・運営」について、資料 6 により「病院や大学等との連携」について説明した後、各委員による議論を行った。

- (1) （仮称）静岡社会健康医学大学院大学の設置認可申請について
  - ・ 推薦入試の場合、英語試験を実施しないとのことであったが、大学院生をとる際に、英語力を見なくてよいのか、国の基準を確認すること。

- ・ 入学して英語の文献が読めないと困るので、推薦の要件に英語の能力を記載してはどうか。
- ・ 面接審査の中に、語学力を問う内容を盛り込んでどうか。
- ・ 推薦入試であっても、英語力の基準を示しておいた方がよい。
- ・ 社会人にとって学費は、かなりの負担となる。県では医学生への奨学金を実施しているが、MD（医師免許を持っている者）であれば、その枠を借りてもよいのではないか。そうすることで、医師が静岡に定着してくれることにもつながる。
- ・ 需要調査で「大学院大学に大いに興味・関心がある」と答えた団体に対しては、県から大学院大学の説明会を開催するなど、熱意をキープしてもらいたい。

本日の意見を踏まえて、文部科学省への設置認可申請することについて、委員の同意を得た。

(2) 申請後のスケジュールについて

- ・ 認可が下りないと学生募集はできないとのことであるが、9月から始めて、11月に試験では厳しい。事前に情報発信することで、入学の準備もできるとよい。

(3) 公立大学法人の組織・運営について

- ・ 例えば、県立総合病院の部長が社会健康医学研究センターの研究員も兼務するとなると、病院長の指揮下にあるのか、研究センター長の指揮下にあるのか、ガバナンスをどのようにするのか整理する必要がある。
- ・ 教員の人事に当たっては、教授会と理事長との間でフリクション（摩擦）が起こることがある。

(4) 病院や大学等との連携について

- ・ 入学金と授業料を合わせて90万円は、学生にとって大きな負担。応募者が魅力を持つ仕掛けを早目に検討した方がよい。